

## 地域防災実戦ノウハウ(47)

—実践的な防災訓練を目指して

(その24)—

Blog 防災・危機管理トレーニング

主宰 日野宗門

(元消防科学総合センター研究開発部長)

今回は、図上シミュレーション訓練終了後の検討会(評価・検証)の進め方を解説します。

### ◆◆◆◆図上シミュレーション訓練終了後のく検討会(評価・検証)◆◆◆◆

#### 4. 検討会(評価・検証)(13時00分～16時00分)

##### 4.1 検討会(評価・検証)進行上の一般的留意点

###### (1) 図上訓練における評価・検証の重要性

図上訓練に限らず訓練の評価・検証は重要です。訓練を実施してみて気づいたこと、疑問、問題点、今後の改善方策などを訓練企画者(統制班)や訓練参加者が率直に提出し検討を行うことは訓練の成果を共有し、技能を定着させる上からも大切です。特に図上訓練の場合、以下に述べる理由から実動訓練とは比較にならないほど検証は重要な意味を持ちます。このことを検討会の冒頭で強調しておく必要があります。

実動訓練では、人や車両の運用、機器や資機材の操作・活用等に関する技能等の向上を目的にしていますが、それらの運用や操作・活用等が適切であったかどうかは(実動訓練の特性上)その場で即座に結果が出ることから評価・検証は容易です。

これに対し、図上訓練では、訓練参加者が行った状況判断、意思決定等が実際の災害時に有効であるかどうかはその場ではすぐに判明しないことがたびたび生じます。「このような判断で実戦に耐えうるのか?」といった疑問は訓練中に参加者の多くが抱くものと思います。それは、図上訓練は通常、訓練参加者が体験したことのないような規模や条件の災害を対象に行われること、得られる情報が少なくかつ状況が流動的な中での状況判断等を問う場面が多いことが主要な理由と考えられます。

このような事情から図上訓練で評価・検証の手抜きをすると、その訓練は単なる「図上訓練ごっこ」、「図上訓練ゲーム」に陥ってしまう恐れがあります。そのため、図上訓練では十分な時間を割いて評価・検証を行い、実戦に耐えうる能力を獲得・定着させることが極めて

重要となります。

## (2) 検討会(評価・検証)の基本的な進め方

検討会の進め方に決まりきったものはありませんが、フェーズごとに複数の訓練参加機関に重要と感じた問題点・課題を簡潔に発表していただき、それをきっかけにして率直な意見交換を行うのが実際的な方法と思われます。

この場合、図上訓練や市町村の災害対応に詳しい防災専門家や近年の災害被災地の市町村職員といった大規模災害時の活動・問題点に通じている方々を外部からアドバイザーとして招き、検討会に加わっていただくとより内容の充実した評価・検証が可能になると考えられます。

なお、今回の図上シミュレーション訓練のスケジュールでは、当日の検討会(評価・検証)には3時間程度しか充てることができません。当然、論点を絞った検討会にならざるを得ません。そのため、当日の議論とは別に図上訓練に対する意見を後日文書で提出していただくことが大切です。

## (3) 検討会(評価・検証)で使用する素材

検討会(評価・検証)では、訓練で使用した「対応記録票」、「対応伝達票」を素材に用います。なお、訓練時に図1の例のような「問題点・課題」欄を設けた「対応記録票」、「対応伝達票」を使用し、その欄に気づいた問題点・課題等を書きとめておけば、その記述内容が重要な議論の素材になるでしょう。

このほか、評価・検証に有用な資料(チェックリストなど)があれば、それをを用いても良いでしょう。その種の資料については次回に紹介する予定です。

記入者 所属 \_\_\_\_\_ 氏 名 \_\_\_\_\_

No.	他機関から（他機関名）	対応決定時刻

対	
応	
問 題 点 ・ 課 題	

- \*「No.」欄には「状況付与票」のNo.を記入してください。なお、他機関からの対応伝達票に対して回答する場合は当該対応伝達票に記載されているNo.を記入してください。その場合、「他機関から」欄には、当該機関名を記載してください。
- \*「対応決定時刻」欄には、「対応」欄に記載された対応を決定された時点での統制班が掲示している訓練想定時刻を記入してください。
- \*「対応」欄には状況付与票（又は他機関からの対応伝達票）の付与状況に對しとられた対応を記載するとともに、その判断の根拠等を記入してください。
- \*「問題点・課題」欄には、「対応」欄の記載事項を決定・判断・実施する際に感じられたあるいは生じると思われた問題点・課題を記載してください。

図 1 問題点・課題欄を設けた対応記録票（例）

#### 4.2 検討会（評価・検証）の進行例

以下に検討会の概略の進行例を示します。進行上の細かな留意点については次回に解説します。

## 検討会（評価・検証）の進行例

1. それでは、これから検討会を開始いたします。
2. 図上訓練における検討会（評価・検証）は極めて重要です。  
※ 以下、本文中の4.1の(1)「図上訓練における評価・検証の重要性」の記述内容に沿って評価・検証の重要性を強調します。
3. 検討会では、午前中の訓練時に記入された「対応記録票」、「対応伝達票」を素材として評価・検証を行っていきたいと思います。それらをご覧いただきながら、訓練時に感じられた問題点・課題を中心にご発言をお願いいたします。  
なお、本検討会では、「質問は自由、批判は厳禁。批判の代わりに代案を」をルールとして進行します。  
また、発言に際しては、所属とお名前をお願いいたします。  
よろしくをお願いいたします。
4. 早速、フェーズ1についてのご発言を求めます。どなたでもご自由にどうぞ。  
(発言がなければ、司会が複数人を指名します。)  
発表は5分以内でお願いします。  
それでは、まず、◎◎さん、お願いします。  
(◎◎さん発表)  
続きまして、△△さん、ご発表をお願いします。  
(△△さん発表)
5. お二人からのご発表が終わりましたので、以下ではご発表いただいた内容を素材に、評価・検証を行っていきたいと思います。  
評価・検証の方法は、ただいまの発表内容に対して、訓練に参加された皆さん方、司会、アドバイザーの方々から、質疑応答、代案の提示等により進めたいと思います。  
どなたからでも、かまいません。どうぞ、ご自由にご発言ください。  
※（会場の雰囲気が硬い場合は）司会者から「まず、私から口火を切らせていただきます。」という。  
  
(司会者において、議事進行を行う。)
6. さて、そろそろこの時間帯での議論の残り時間が少なくなってきました。ここで、これまでの議論を整理しておきましょう。  
(司会においてここまでの議論を簡単に整理する)
7. 次に、フェーズ2に移ります。  
以下、フェーズ1と同様に進行する。

8. (フェーズ3まで終了後) 以上でフェーズごとの検討を終わります。  
それでは全体を振り返って、何かご意見や疑問がありましたらお願いします。  
(意見がなければ、司会において全体に共通する問題点・課題などを提起する。例えば、地震発生時期が厳冬期であった場合、津波が広範囲に及び広域応援部隊の到着が困難な事態が続出した場合など)
9. (専門家にアドバイザーを依頼している場合) 意見等も概ね出尽くしたようですので、ここで全体の講評をアドバイザーの◎◎さんをお願いいたします。  
(アドバイザーがコメント)  
※ 専門家には全体講評だけでなく、各フェーズで適時アドバイスをいただくこととしても良いでしょう。
10. ◎◎さんには、訓練関係者だけの検討ではつい見過ごしがちな重要なポイントを分かりやすく指摘いただき、大変ありがとうございました。  
以上で本日の検討会を終了します。  
なお、本日の検討会では時間の関係で皆さん方の疑問やご意見を網羅できませんでした。お帰りになりましたら、皆さん方のお手元にお配りしましたアンケート票に率直なご意見をいただきたいと思います。  
訓練の進め方、訓練を通じて感じた問題点や課題、対策の改善意見などどんな意見でも結構です。1週間以内に主催者側にご提出ください。主催者側ではその意見をまとめ、対策に生かすとともに、必要があれば再度検討会を開催したいと考えています。その節はよろしく願いいたします。
- 以上をもちまして本日予定していました全ての事柄を終了いたしました。最後に、主催者を代表して△△からごあいさつ申し上げます。

なお、自治体の方々の防災・危機管理能力向上のお手伝いをする個人ブログを開設しましたので興味のある方はご覧ください(オープンしたばかりですのでコンテンツは少ないですが、今後充実させていく予定です)。

※Blog 防災・危機管理トレーニング

<http://bonsai-navi.afr-nifty.com/training/>

(次号へ続く)